

主要輸出国の1~4月の生乳生産量は前年比0.7%増、国際貿易も堅調

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2021年6月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会6月会合が、ビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EUの2021年1~4月の生乳生産量は前年比0.1%増、直近の4月は前年同月比1%増であったことや、2021年1~4月の主要輸出国の生乳生産量は0.7%増で、国際貿易も堅調であったことなどを伝えている。また同報告書では、ヨーロッパの消費者は健康的で持続可能な食品への関心が高い一方で、フランスでは新型コロナ禍で有機乳製品の需要が減少していることや、EUでは生乳及び乳製品の価格が上昇傾向にあり、市場での取引は活発であるが、中国向けの輸出への過度の依存、飼料コストの上昇、今後数週間の気候条件など、懸念される材料があることも指摘している。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った)

MMO 経済委員会の第38回会合は、以下のミルクサプライチェーンの専門家の参加を得て、ビデオ会議で2021年6月23日に開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)
- CEJA (欧州青年農業者協議会)
- EMB (欧州酪農委員会)
- ECVC (ビア・カンペシーナの欧州組織)(*2)
- EDA (欧州乳業協会)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合)
- Eurocommerce (欧州商工会)

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EUの2021年の生乳生産量は、1~4月は前年比0.1%増、4月は前年同月比1%増

アイルランド、イタリア、ポーランド、フランスを含む18か国のEU加盟国の報告によると、EUの生乳集乳量は、2021年4月に2020年同月比で1%(+13万3000トン)増加した。ま

た、2021年1~4月の累積集乳量は、0.7%減少した(うるう年の調整により、+0.1%のわずかな増加になるだろう)。

集乳された生乳全体の4.4%は有機だった(20か国のEU加盟国からの通知に基づく)。有機牛乳の割合が最も高いのはオーストリア、スウェーデン、デンマークであり、最も低いのはポーランド、ポルトガル、エストニアであった。6か国のEU加盟国では、有機生乳の割合は集乳された生乳全体の1%未満だった。

2021年1~4月における集乳量の減少は、以下のようにほとんどの乳製品の生産量の減少につながっている: 全粉乳(-11.9%)、脱脂粉乳(-6.3%)、バター(-2%)、発酵乳(-2.2%)、飲用乳(+1.1%)。チーズの生産量は3%、クリームは1.4%、濃縮乳は4.6%増加した。

EU平均の庭先(牧場出荷)乳価は季節的な傾向に逆らって動き続けており、EU平均価格は2021年4月に1キロ当たり35.44セントと報告された。これは、1年前より6%高く、過去5年間の平均より9.5%高い。2021年5月のEU加盟国の推定値は、1キロ当たり35.57

セントへとさらにわずかな上昇を示している(4月と比較して+0.4%)。

EU では乳製品価格が 2014 年以来の水準に上昇

EU 平均の乳製品価格、特に脱脂粉乳、全粉乳、バター、ホエイパウダーの価格は、年初から継続的に上昇してきた。EU のホエイパウダーの価格は 2014 年 3 月以来の最高レベルに達し、全粉乳の価格は 2014 年 7 月以来の最高レベルに既に達している。バター価格は 2021 年の年初以来 22% 上昇し、脱脂粉乳価格は 18% 上昇した。チーズの価格は、エメンタルチーズ(-0.2%)を除き、昨年レベルを上回っている。全ての乳製品価格は、バター(-1.6%)を除き、それらの 5 年間平均を上回っている。

春期の寒冷な天候は EU の生乳供給にマイナスの影響を及ぼしたが、5 月の降雨はその回復に寄与する可能性がある。結果として、2021 年は年間 0.8% の成長が見込まれている。今後数カ月以内に、より多くの生乳がバターと脱脂粉乳の製造に向けられる可能性がある。これにより、価格が安定するため、EU の乳製品が、世界市場での競争で優位となる可能性がある。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品に基づく 2021 年当初の EU 在庫評価は、この数年間で最低の水準で始まった。具体的には、民間の脱脂粉乳在庫量も 2020 年 7 月以降減少し(3 月の在庫量は 5 万トン以下)、2021 年 3 月末のバター在庫量は、年のその時期としては通常のレベルだった(15 万トン)。年初のチーズ在庫量はあまり多くなかった(35 万トン)が、生産量の増加と英国及び米国への輸出量の減少により、45 万トンまで増加した。さらなる在

庫量の進展は、生乳生産量と内外の乳製品需要に依存するだろう。

2021 年 1~4 月の主要輸出国の生乳生産量は 0.7% 増、国際貿易は堅調

世界の主要な輸出国・地域(EU27 各国、英国、米国、ニュージーランド、オーストラリア)での生乳生産量は、2021 年 4 月に 2.5%、1~4 月では 0.7% 増加した。ニュージーランドの 3 月及び 4 月の集乳量の増加は印象的で、それぞれ 9.8% 及び 11.7% だった。米国の集乳量は、2021 年 1~4 月に拡大を続けた(+1.6%)。

今年はこれまでのところ世界貿易量の伸びはとても堅調である。成長は、乳脂肪を除く全ての主要カテゴリーで起きてきた。中国、韓国、東南アジアが追加の需要に貢献してきた。中国は 2021 年第 1 四半期に世界の輸入量の三分の一を占め、英国に代わり EU の乳製品輸出の第一位の行き先となった。EU の米国への輸出量は、追加関税の停止の結果として回復するはずである。コンテナの不足と貨物運送料の高騰は、依然として輸出活動に影響を及ぼしている。

中国は、国内消費量の増加と変化に対応するために、規模から品質の成長へと移行しながら、生乳生産量を次第に増やしている。ただし、乳価は依然として高く、依然として総需要の約 32% は輸入によって賄われている。EU の市場シェアは拡大している。ヨーグルトは高い成長率をみせ、昨年 of 飲用乳の売上のペースを上回っている。

ヨーロッパの消費者は健康的で持続可能な食品への関心が高い一方、新型コロナ禍で有機乳製品の需要が減少している国も

小売面では、ヨーロッパの消費者は健康的

な食品を求めており(消費者の約 30%)、より持続可能な代替品及び生鮮食料品に支出しようとしている(消費者のそれぞれ 60%及び約 70%)。フランスでの(2021 年 1~4 月の)有機牛乳乳製品の需要は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の期間中に減少した(一般の牛乳乳製品に対する市場シェアが低下)。

EU の生乳及び乳製品の価格は上昇傾向にあり、市場の取引は活発である。乳製品の需要はこれまで並外れた回復力を示してきたが、MMO では、今後の懸念材料として、中国の需要が輸入に過度に依存していること、飼料コストが上昇していること、そして、今後数週間の気候条件を挙げている。

参考資料:

- 1) https://ec.europa.eu/info/sites/default/files/food-farming-fisheries/farming/documents/mmo-meeting-2021-06-23_en.pdf MMO economic board meeting report – 23 June 2021. European Commission.
- 2) <https://www.eurovia.org/> 国際的な農民組織であるピア・カンペシーナの欧州組織であり、欧州 21 カ国の 31 団体が所属。

(資料閲覧:2021年 6 月 30 日)

(Jミルク 国際グループ 新 光一郎)